

# 米水津村周辺の考古学上の

## 「遺跡・遺物」発見者の物語（四）

### 市野瀬 仁

（会員・佐伯市長島町）

佐伯市・南海部郡地方の古墳は、佐伯湾に望む地域にしか存在しない。それも佐賀関や臼杵市にある前方後円墳のような大型古墳ではなく、小さな円墳まがいのものであった。何分広い後背地がないから大きな権力を持つた豪族はいなかった。佐賀関や臼杵のように北へ行くほど大分平野や大和政権に近い瀬戸内や北九州の影響を受ける位置の所には強大な実力者がいた。それも海部集団の水軍を駆使する性格のものであった。

城山の山頂に登る「独歩碑の道」を歩いて佐伯湾を遠望すると、三個所の古墳のあった位置が分かる。

まず、大入島の最先端である荒網代の頂上に白い塔が見える（気象条件によっては見えないが）。その真下に「東

島（とうしま）古墳」がある。登り口は鳥道で分かりにくい、七合目位からコンクリートの階段がついていから分かりやすい。

二つめは、長嶋山のあった渡町台小学校の近くに宝剣神社がある。その真上二十メートル程の所に「宝剣山古墳」があった。

三つめは、西の丸の方へ行くと、佐伯大橋の向こうに下久部の豊日岡（とよひおか）神社の森が見える。その森の右側面に「岡の谷古墳」があった。

四つめの「地松浦（ぢまつら）古墳」は、鶴見町地松浦小字外小浦（そとこうら）にあったが、城山からは見えない。

以上四つの古墳の中、「岡の谷古墳」を除いて、刀剣を主とした武具が出土されたことから大和時代の古墳後期（六世紀から七世紀まで）のものであることが分かった。この度の調査で、「岡の谷古墳」は、豊日岡神社の森のどの位置にあったのかが確認できたことは大きな収穫であった。

それでは、「宝剣山古墳」と「岡の谷古墳」について地元の方に聞いてみよう。

## 一 宝剣山古墳について

佐伯市渡町 氏子総代 松下 順吉

私も渡町地区民は、昔、海部の豪族の墓であろうと聞き伝えられてきた。また、いつの時代か、向こうの山にあったものを、この地に移動したということも聞いている。特に、古墳の中心に在る石祠を宝剣様と呼び、春二月二十二日、秋八月二十二日氏神としてお祭りをしてゐる。この祭には神官は招かず、現在二十一名の氏子のみで行われている。

長島地区区画整理事業の施行に当たり、宝剣山を取り除くことになったので、私も氏子は、佐伯当局に山をそのまま残すように陳情した。しかし、それは認められず、やむなく県教委文化課と佐伯教育委員会とによる発掘調査が、昭和五十三年三月五日に実施されるに至った。神事によれば、宝剣様は昔からこの地に鎮座しているもので、他に移転は許さないとのこと。その後、都市計画課長・係長とお願いに行った処、移動する場合は、今の位置より垂直に下げ、方位は東から東南方向に限るとのこと。また、移転発掘の神事は全て宇佐神宮に参つて頂

いた。神事のとおり、垂直に下がった位置に復元し、拝殿も建造したことをつけ加えておきたい。

以前、氏子は、春秋二回バス数台に分乗して宇佐八幡にお参りしたが、今は車で各自銘々にお参りするようになった。

## 二 岡の谷古墳

舟型石棺出土の経緯

佐伯市下久部岡の谷 野口 丈夫

わが家の裏山、豊日岡神社の裾続きにて、明治三十七、八年、日露戦役当時、母屋建築宅地造成のため、裏山発掘作業中、一間余りの舟型石棺出土。古の戦場跡ならんと、貴重なものと思ひ、東禅寺山佐伯四国に奉納した。

1 石棺は、その後佐伯文化会館に移転。以後いずこにいたるか不明なると聞き、残念至極に存ずるなり。先代より語り継ぎしこと絶えんと不安あり、この家に老いゆくを哀しむ。



宝剣神社

宝剣山古墳は渡町台小学校のところ



一番左前方の山は大入島である。  
その右方に白い点がある。  
その下に東島古墳がある。



こんもりとした豊日岡神社の森



岡の谷古墳は前方二棟の家の位置にあたる  
(野口丈夫宅)